

ユニオンファンド 月次レポート

第 106 号

追加型投信 / 内外 / 株式 分配金再投資専用ファンド

2017年9月8日作成

MONTHLY TOPIC

この質問にはドギマギしました

「どういうファンドを買ったらいいでしょうか？」

セミナーで時々こういう質問をいただきます。しかしこれ、政治家の後援会事務所で「どの政党の誰に投票したらいいでしょうか？」と聞いているようなものです。歯医者に行って「どこの歯医者さんにかかればいいでしょうか？」とか、スーパーで「どこに行ったら安くていいものが買えますか？」と聞くのと同じです。そんなわけで最初は、投信会社の社員を前にして随分と大胆な質問だなあと、少々戸惑いました。でも、今は違います。

ユニオン投信は、労働組合が作った世界でも珍しい投信会社ですが、労組が金融事業に乗り出たくて作ったわけではもちろんありません。おそらくノウハウもないに等しかったことでしょう。それでもあえて作ろうとしたのは、組合員の生活向上のために行っているライフサポートという活動の一環として、投信会社が不可欠だという判断があったからです。あくまでも、組合員、広くは社員、さらにその先には一般の生活者の財政面の問題を解決するという目的があつてのことです。

このように、ユニオン投信は広い意味でのライフサポート活動の一部を担う存在なので、投信を運用し販売することが最大の仕事である私たちユニオン投信のメンバーも、ユニオンファンドを運用し販売するという立場にとどまる必要はないはずです。

思わずたじろいってしまった冒頭のご質問も、こう考えると実によくわかる話です。質問された方は、もちろんユニオン投信をご存じでしょう。すでにユニオンファンドを買ってくださっているかもしれません。でも、そこからさらに一歩踏み出して、自分にとっていいファンドとはどんなファンドなのか知りたいと願つてのご質問だったのでしょう。

自社のファンドのことばかり説明するのではなく、財産づくりにとって大事なことを中心にお話したのがよかったのかもしれない。私のことを単にファンドを作って売るだけの人と思われたなら、このような質問はされなかったに違いありません。疑問に答えてくれると純粋に期待されてのことだと気づいてからは、この質問が出るたびにうれしくなってくるのです。

肝心の答えは・・・

さて前置きが長くなってしまいましたので、どういうファンドを買ったらいいか、その答えは次回にでもお伝えすることにしましょう。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

ユニオンファンド運用状況

(2017年8月末現在)

基準価額

24,229 円

純資産総額

55 億 54 百万円

期間別騰落率(%)

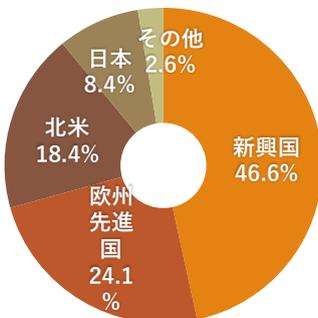
1 ヶ月	-0.46%
6 ヶ月	8.04%
1 年	23.06%
3 年	20.67%
5 年	98.11%
設定来	142.29%

複利年率(%)

10.49%

*「複利年率」とは設定日から基準日までの騰落率を年率（複利）で表したものです。「複利年率」は過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また受益者ごとの購入時期によって異なります。

地域別構成比



投資部分(現金等を除く)に占める比率
(2017年7月末現在)

基準価額と純資産総額の推移



組入ファンドの内訳

ファンド名	主な地域	組入比率(%)	月間騰落率(%)※
さわかみ F	日本	7.1%	-0.8%
キャピタル F	欧米	13.7%	-0.7%
ハリス F	欧米	21.8%	-1.2%
コムジェスト・ヨーロッパ F	欧州	4.5%	-0.9%
コムジェスト・エマージング F	新興国	38.6%	0.0%
現金等	-	14.3%	-

※ 騰落率はユニオンファンドの基準価額に反映する日付で計算

ファンドの特長

- ① 長期で「債券」の収益率を上回るとされる「株式」に投資します
- ② 世界の経済成長を享受するため、「グローバル」な視点で投資します
- ③ 専門性の高い複数ファンドに投資する「ファンド・オブ・ファンズ」で運用します
- ④ 実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します
- ⑤ 株価が割高と思われるときには現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

UNION FUND REPORT

2017年8月の市場動向と運用状況

投資環境と基準価額の推移

世界の株式市場は、北朝鮮と米国の対立激化を受けてやや調整色を強めました。北朝鮮による相次ぐミサイル発射と、それを巡る双方の言葉の応酬が激しさを増すにつれ、紛争ばっ発への警戒感から、いわゆるリスク回避的な円買いも進みました。まさにリスクにさらされているはずの日本の円が買われるのは不思議に思えますが、これは、①金利の安い円を借りて株式などリスク資産を買っていた投資家が手じまっている（株式などを売る一方、借りていた円を返すために円買いを進めている）ことによります。このほか、②日本の金融機関などがリスクを避けるために海外資産を売却して円を買戻す動きも円高の一因と考えられています。

米国では、ダウ平均が7日まで9営業日連続で史上最高値を更新したものの、輸送株指数や小型株を代表するRussel2000指数などが軟調に推移しました。このように物色対象が市場の一部に限られているのは上昇相場の末期症状だとして警戒する向きも増えました。もっとも、月末にナスダック総合指数が史上最高値を更新するなど、全面的な弱気というわけではなく、下旬からは株価がやや戻す展開となりました。

欧州では、ユーロ高によって企業の輸出競争力が低下するのではないかと懸念され、株価は軟調に推移しました。ユーロ高の背景は、米国の利上げ見通しが先送りされている一方で、欧州中央銀行が金融政策を超緩和状態から正常化させる意向を示していることにあります。もっとも、欧州の景気は引き続き良好です。

こうした中、ユニオンファンドは値下がりで終わりました。月間で下げたのは昨年8月以来のことです。先進国市場が総じて軟調だったうえ、為替もドル安だったことが響きました。ただ、新興国株は好調で、組入比率が最大のコムジェスト・エマージング F がほぼ横ばいを維持したことから、世界の市場全体よりも下落は小幅で済みました。

運用の状況

7月に組み入れを開始したコムジェスト・ヨーロッパ F の買い増しを含め、市場の軟化場面を中心に4ファンドを買い付けました。この結果、月末時点の組入比率は85.7%と、7月末から2ポイントほど上昇しております。

今後の見通しと運用方針

北朝鮮問題が今後も重荷となりそうです。それ以外にも、9月半ばのFOMC（米国連邦公開市場委員会）で量的緩和策の巻き戻し（米国連銀が買い付けてきた国債などの債券を償還時に再投資しないこと）を開始するかどうか非常に注目されます。米国景気は、悪くはないものの勢いを欠いています。税還付の遅れによる一時的減速との説明が有力ですが、自動車や住宅など金利に敏感な産業で停滞感が広がってきた点は要注意です。米国株価には割高感があるうえ、企業業績の伸びが今後鈍化する可能性もありそうです。大きく下がらないまでも上がりにくい状況と見ています。

他方、日本、欧州、新興国は、景気回復がまだ続く可能性があり、しかも米国ほど株価に割高感がないことから、こうした市場のウェイトを今後も高めていくことが望ましいと考えています。とはいえ、当面は不透明要素が多いため、買い付けは市場の軟化場面を中心に慎重に行う方針です。

運用責任者 久保田徹郎

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

さわかみファンド

基準価額の推移



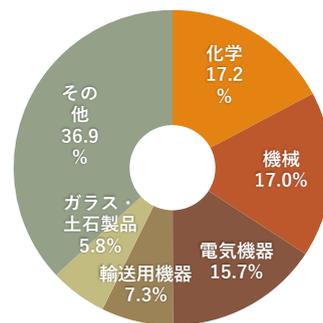
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 ブリヂストン	4.7%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2 日本電産	4.3%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
3 花王	3.5%	日本	化学	トイレペーパー首位
4 ダイキン工業	3.3%	日本	機械	エアコン世界首位
5 TOTO	2.8%	日本	ガラス・土石製品	衛生陶器首位
6 信越化学工業	2.8%	日本	化学	塩ビ・シリコンエー世界大手
7 国際石油開発帝石	2.6%	日本	鉱業	石油メジャー
8 浜松ホトニクス	2.5%	日本	電気機器	光検出器の世界的企业
9 トヨタ自動車	2.5%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
10 デンソー	2.1%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
上位10銘柄	30.9%		現金等	12.3%

業種別構成比



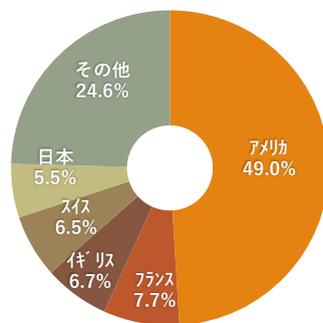
※ 業種：東証33業種、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年8月末現在>

キャピタルF (キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ)

基準価額の推移



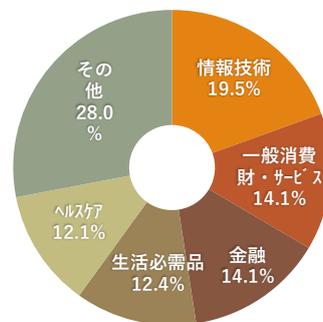
国別構成比



組入銘柄トップ10

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 Microsoft	2.6%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト
2 Incyte	2.5%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品パイプ
3 ASML	2.4%	オランダ	情報技術	半導体製造装置メーカー
4 TSMC	2.2%	台湾	情報技術	半導体メーカー
5 Visa	2.2%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
6 Alphabet	2.0%	アメリカ	情報技術	グーグルの持ち株会社
7 AIA	1.9%	香港	金融	生保・金融サービス
8 Priceline	1.6%	アメリカ	一般消費財・サービス	旅行オンラインサービス
9 Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	アルコール飲料、食品
10 Nestle	1.5%	スイス	生活必需品	世界最大の食品飲料会社
上位10銘柄	20.4%		現金等	5.5%

業種別構成比



※ 業種：MSCI世界産業分類基準の11セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年7月末現在>

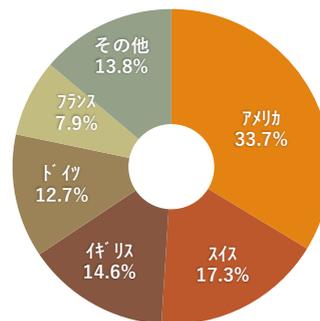
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ハリスF (ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007)

基準価額の(分配金込み)の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 GLENCORE	5.8%	イギリス	素材	鉱山開発・商品取引
2 CREDIT SUISSE	5.6%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
3 DAIMLER	5.3%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
4 BNP PARIBAS	5.2%	フランス	銀行	フランス大手銀行
5 ALLIANZ	5.0%	ドイツ	保険	総合保険大手
6 CNH INDUSTRIAL	4.1%	イタリア	資本財	農機・建機メーカー
7 JULIUS BAER	3.8%	スイス	各種金融	プライベートバンク
8 GENERAL ELECTRIC	3.6%	アメリカ	資本財	航空機エンジン、発電機等
9 GRUPO TELEVISIA	3.5%	メキシコ	メディア	放送局
10 GENERAL MOTORS	3.4%	アメリカ	自動車・自動車部品	米ビッグ3の一角
上位10銘柄	45.4%		現金等	2.9%

業種別構成比 (マザーファンド)



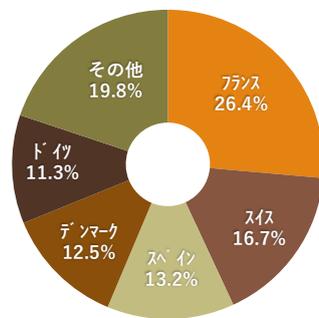
※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 7 月末現在>

コムジェスト・ヨーロッパF (ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA)

基準価額の推移



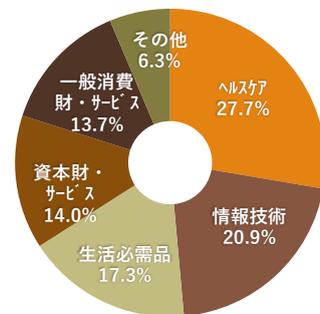
国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ 10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 INDITEX	7.0%	スペイン	一般消費財・サービス	ファッショナー
2 AMADEUS	5.7%	スペイン	情報技術	旅行予約システム
3 WIRECARD	5.0%	ドイツ	情報技術	オンライン決済
4 ESSILOR	4.9%	フランス	ヘルスケア	光学製品
5 COLOPLAST-B	4.5%	デンマーク	ヘルスケア	人工肛門世界大手
6 SARTORIUS STEDIM	4.4%	フランス	ヘルスケア	ウイルス除去フィルター
7 DASSAULT SYSTEMES	4.3%	フランス	情報技術	欧州大手 3D ソフト会社
8 AB FOODS	4.0%	イギリス	生活必需品	食品製造・衣料小売
9 ASSA ABLOY	3.6%	スウェーデン	資本財・サービス	鍵等のセキュリティシステム世界最大手
10 L'OREAL	3.6%	フランス	生活必需品	化粧品世界最大手
上位10銘柄	47.0%		現金等	4.0%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017 年 8 月末現在>

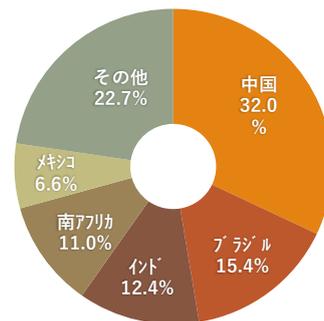
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

コムジェスト・エマージングF (ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンド SA)

基準価額の推移



国別構成比 (マザーファンド)



組入銘柄トップ10 (マザーファンド)

組入銘柄等	比率	国籍	業種	業務内容等
1 TSMC ADR	4.8%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2 CHINA LIFE	4.4%	中国	金融	生保国内最大手
3 POWER GRID OF INDIA	4.0%	インド	公益事業	電力関連 (送電網)
4 MTN	3.7%	南アフリカ	電気通信サービス	携帯電話
5 NETEASE ADR	3.7%	中国	情報技術	オンラインゲーム
6 PING AN INSURANCE	3.3%	中国	金融	保険大手
7 SAMSUNG LIFE	3.2%	韓国	金融	生保
8 INNER MONGOLIA YILI	3.2%	中国	生活必需品	乳製品国内大手
9 BB SEGURIDADE	2.9%	ブラジル	金融	保険大手
10 BAIDU ADR	2.9%	中国	情報技術	検索エンジン世界2位
上位10銘柄	36.2%		現金等	2.4%

業種別構成比 (マザーファンド)



※ 業種：MSCI 世界産業分類基準の 11 セクター、構成比：投資部分(現金等を除く)に占める比率 <2017年8月末現在>

ショートコメント

ハリス社の割安株投資

ユニオンファンドが組み入れているファンドは、どれも短期的な値動きを追わず、優れた企業を割安な時に買い付ける点で共通しています。ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007 (以下「ハリス F」) は、その中でも最も割安株投資に徹しているファンドと言えるでしょう。このファンドの場合、綿密な調査と分析によって算定したその会社の「企業価値」に対し、株価が3~4割安くなって初めて投資を行います。割安株投資と言っても、単に株価が下がったから買うというのとは全く異なります。あくまでも「会社の価値に対して割安」であることが肝心です。

割安株には、通常、株価が安い理由があり、それを知れば買いにくくなるものです。市場で懸念されている理由を知ったうえで買って買うわけで、上っ面の調査ではなかなかできないことです。

どちらかと言えば市場で人気のない企業を中心に買うものですから、組入銘柄は一見すると「冴えない会社のオンパレード」となっていることがしばしばです。時には市場で破綻の噂が立っている企業さえ持っていることがあります。しかし気がつくと株価は上がっていて、市場で人気になるころには売ってしまっているということがよくあります。

ハリス F は、ユニオンファンドの設定来、組入ファンドの中で基準価額が最も上昇しています。徹底した調査に裏打ちされた、株価下落にひるまない投資——それが素晴らしい実績を上げてきた背景と言えるでしょう。

(運用責任者 久保田徹郎)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

NOTICE

業務管理部からのお知らせ

ご住所の変更をされるお客様へ

弊社ではお客様のご登録情報に変更がある場合、各種変更届をご提出いただいております。

ご転居等で現在の登録住所を変更される方は、弊社業務管理部（TEL：0263-38-0725）へのお電話または弊社ホームページの「取引口座関連（各種変更手続き）」>「登録情報変更用紙請求」フォームで届出用紙をご請求ください。

お届けにあたっては、**新住所が証明できるご本人確認書類をあわせてご提出ください。**

※ ご住所変更の際、個人番号（マイナンバー）もご提示いただきます。

【ご注意ください】

- ・ 新住所をお届けいただくまでの間、各種報告書等は旧住所への送付となります。
- ・ 法令の定めにより、新住所のお届け出がない場合、原則として、ファンドの解約代金等をお支払いすることができません。
- ・ 海外へ転勤・移住等される場合は、お客様によって手続方法が異なります。**必ず出国される前に弊社までお電話ください。**（出国後ではお手続きいただけないものもあります。）

スポット購入のお申込み受付時間について

スポット購入とは、弊社の「ファンド購入用振込先口座」へ、お客様からの都度のお振込みによりファンドを購入いただくものです。弊社へ口座開設されているすべてのお客様がご利用いただけます。

購入金額は「**1万円以上1円単位**」で、お申込日の翌々営業日の基準価額での購入となります。

販売手数料はかかりません。

<当日のスポット購入のお申込みは、15時までに弊社でご入金を確認できたものに限りです。>

スポット購入は、**当日15時までに弊社でご入金の確認ができたものが当日受付分**となります。

15時以降に確認できたものは、翌営業日受付分となります。

※ 15時直前などにお振込みされた場合に、当日分として確認できないことがありますのでご注意ください。

※ お振込みの際は、「**振込依頼人**」名を**必ずお客様ご自身のお名前**でお願いいたします。

※ 「ファンド購入用振込先口座」につきましては、口座開設いただいた際に弊社より簡易書留郵便にてお送りいたしました「総合取引口座【新規】お客さま控え」に記載しております。

（お客さま控えは再発行できますので、ご希望される場合は弊社までご連絡ください。）

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

RISK AND FEE

ユニオンファンドのリスク・手数料

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。－

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの主なリスクは、「価格変動リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」です。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。－

申 込 手 数 料 お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

換 金 手 数 料 ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

信 託 財 産 留 保 金 信託財産留保金はありません。

信 託 報 酬 純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの信託財産より控除されます。
[*実質的な信託報酬：純資産総額に対して年 1.8% ± 0.3% (概算)]
* 『ユニオンファンド』が投資対象とする投資信託証券でかかる信託報酬を含めた率です。
目安であり、組入状況により変動します。

そ の 他 の 費 用 上記のほか、次の手数料・費用等が当ファンドの信託財産より控除されます。

- ① 組入有価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料(消費税等相当額の費用を含みます)
- ② 信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息、監査法人から監査を受けるための費用(監査費用)(消費税等相当額を含みます)

※ 監査費用は委託会社が一部または全部を負担することがあります。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。